

市政功労者等を表彰しました —市制施行133周年記念式—

7月4日に、仙台国際センターで市制施行133周年記念式を行いました。長年にわたり、市の発展と市民生活の向上のために、多大な貢献をされた方の功績をたたえ、特別市政功労者2人、市政功労者39人、永年勤続委員63人を表彰しました。

表彰された方は次の通りです(順不同、敬称略)。



◆市政功労者(本市の振興発展に寄与された方)(自治・消防功労) 高橋ミサヲ、清水誠義、廣瀬博、清水義春、佐藤壽夫、山田勝三郎、緑川武夫、東海林時雄、菅井勝之、日渡清一、畑林義美、竹田隆、高橋恒吉、小松啓祐、松坂卓夫、太田敏見、玉川金嘉(健康・福祉功労) 熊谷紘一、今野正志、大友まり子、諸橋悟、辻一郎(産業・経済功労) 山村蘭子、山野國廣、白松一郎、大友克人、濱宏一郎、中島一則、橋本芳弘(教育・文化功労) 三塚尚可、横澤行夫、吉田尚、水谷修、高橋満(仙台市議会議員として10年以上にわたり市政の発展に寄与された方) ひぐちのりこ、菊地崇良、加藤けんいち、渡辺敬信、庄司あかり

◆永年勤続委員(委員として10年以上にわたり市政の推進に寄与された方)(仙台市国民保護協議会委員) 菊地徹(仙台市入札等監視委員会委員) 高橋千佳(仙台市消費生活審議会委員) 渡辺達徳、加藤房子(仙台市男女共同参画推進審議会委員) 加茂光孝(人権擁護委員) 木村き代、橋川かず子(民

市政トピックス

臨場感のある体験で 備えの大切さを確認

市では7月1日より、バーチャルリアリティー(仮想現実。以下、VR)を活用した「せんだい災害VR」の運用を開始しています。これは、VR専用ゴーグルを装着して、360度の立体映像と音響で再現される、自然災害の予兆や発災の様子を疑似体験するコンテンツを取り入れた防災学習です。

体験できる災害は、地震、津波、洪水・土砂災害、内水氾濫の4種類。洪水・土砂災害編では、大雨の日に体験者が自宅リビングに居ると、テレビに警戒レベル5「緊急安全確保」発令の速報が流れるところから始まります。窓の外からは増水で川のようになり、家の中にも浸水。水の脅威が、瞬間に体験者の元へ迫ります。

疑似体験の後には、ハザードマップの見方の確認や、家族一人一人の避難計画「マイ・タイムライン」の作成など、災害の種類に応



▲VRの映像(上)と、体験をしている様子(下)。体験者の動きに合わせて映像も動くため、実際に自分がそこにいるかのような入感があります

市政トピックス

入館者が100万人 に到達! 地底の森 ミュージアム

じたワークショップを実施。体験者は一連のプログラムを通して、災害を自分事と捉えながら、日頃の備えや適切な避難行動の大切さを学ぶことができます。

「せんだい災害VR」は、今後、市内の学校や町内会、事業所等の防災訓練や研修で活用していきます。

せんだい災害VRの利用申し込みなど詳しくは仙台市防災安全協会 ☎347・3153

7月9日、富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)が入館者100万人を達成しました。この施設は平成8年11月2日に開館。約2万年前の森林跡と、人間の活動跡という世界的にも貴重な発見があった富沢遺跡を、発掘されたままの状態で保存・展示しています。

同日には記念イベントが行われ、100万人目となった小向直樹さん・里江子さん・望晴さん親子に、花束と記念品が贈呈されました。直樹さんは「初めて来て100万人目になったのはびっくり。入った瞬間に迫力のある展示があったことが印象的だった」と話してくれました。

市政トピックス

3年に一度の競演— 仙台国際音楽コンク ール閉幕

5月21日から6月26日までの約1カ月間、日立システムズホール仙台を会場に、第8回仙台国際音楽コンクールが開催されました。

申込者数が過去最高となった大会、厳しい予備審査を通過して舞台上に立ったのは、17の国と地域の68人(バイオリン部門37人、ピアノ部門31人)。才能あふれる若き音楽家たちが、それぞれの個性を發揮した演奏を披露しました。

期間中は、延べ7639人の観客が会場を訪れ、出場者に惜しみない拍手を送っていました。



▲バイオリン部門第1位の中野りなさん

▲ピアノ部門第1位のルウォ・ジャチンさん

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりの本を、紹介します。

震災の対応と復興に挺身した人々の記録
東北大学名誉教授、石巻赤十字病院名誉院長
NPO法人子ども村東北会長・理事 飯沼 一宇



石巻赤十字病院、由井りょう子/著 小学館 刊



高成田 享/著 講談社 刊

「石巻赤十字病院の100日間」増補版」

「さかな記者が見た大震災 石巻讃歌」

本書は、宮城県で最も被害の激しかった石巻地区で、唯一機能した石巻赤十字病院での救護活動の3カ月を記録したものです。

交通、通信が途絶えた中、共通の評価シートを持って、約300カ所の避難所の全てを3日間を巡回し、各避難所の状況を把握し、20万人の命を守るべく、救護活動を推進しました。

当時院長であった私は、全ての病院職員と全国から支援に來られた多くの救護班に感謝いたします。

本書に書かれた生々しい記録と医療活動の取り組みは、これから遭遇するかもしれない大災害への対応に資するところが大きいと思われま

かつてニュースステーションのコメントターをされ、2008年から2011年まで朝日新聞石巻支局長を務め、在任中に「こちら石巻 さかな記者奮闘記」を著わした高成田氏のドキュメンタリーです。退職後のパリ旅行中に震災の報に接すると、帰国後すぐから石巻を幾度となく取材しています。

登場者が全て実名で書かれ、しかも著者が直接目で見、耳で聞いたことの記録です。石巻に限らず豊富な人脈を駆使して、漁業を巡る課題、漁業都市石巻の再生にける思いなどが綴られた「人たちの底力を感じさせます。本書は地域おこし、街づくりに示唆を与えてくれます。

●紹介した本は、宮城野図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585